

候補者意見書

2010年06月22日

2010年度

(社)日本青年会議所関東地区
東京ブロック協議会
会長選出管理委員会
委員長 堀江 一男 殿

社団法人 東京青年会議所
候補者 青山 貴洋 印



(横書き・800字以内)

私たちJCは混沌とした社会を「未知の可能性」として希望を抱いています。現在我が国日本は、正に混沌としているのではないのでしょうか。この未知なる可能性を切り拓く為、今改めて確かな時代を描く必要があります。

私は本年新指針策定を担当させて頂いています。指針の成り立ちや経緯などに触れ、また各地青年会議所理事長の皆様からLOMの現状や各地域での問題を傾聴し、現実と課題に直面する機会を頂きました。依存から自立へと運動方針を掲げ早や5年。目まぐるしく変わる現代において、変わらないのは依存から脱却しきれない現実です。

他人へ依存することは決して悪いことではありません。しかし、これからの社会は自分だけが良いという利己的な考えではなく、自身も社会の構成員の一員なのだという利他的な考えのもと、持てる力や考えを、少しずつ社会へ注ぎこむことができる民の集合体で構成されることが望まれます。自らの住む国を憂い、地域を愛する市民が増えれば、そのまちや国は必ずより良い方へと向かうことでしょう。JAYCEEはその先駆けでなければなりません。

景気の上昇を肌で感じ取れない経済状況が続く中、苦しい状態で青年会議所活動をされているメンバーもたくさんいることと思います。しかし、厳しい今だからこそ私たちJCが確かな時代を描き、その目的に向かう確固たる道筋をたて、行動しなければこの国の発展はありません。目指す社会と同じく、自分が今できることを少しずつJCに注ぎ、大きなパワーとして運動へ転嫁させましょう。

40周年を迎える次年度、まずは各地青年会議所それぞれの地域がさらに活力漲るまちとなる為、東京ブロック協議会内すべての青年会議所と地域間において連携を強化し、その集合体である首都東京が、日本を牽引できる広域地域である為に確かな時代を描き、率先して行動することをここに改めて宣言し、2011年度東京ブロック協議会会長へ立候補致します。

(2010選管・No.4)

推薦理由書

2010年06月22日

2010年度

(社)日本青年会議所関東地区
東京ブロック協議会
会長選出管理委員会
委員長 堀江 一男 殿

社団法人 東京青年会議所
理事長 安藤 公一



(横書き・400字以内)

誰よりも日本の将来を憂い、仲間を思い、J Cを愛する男

青山君は、そんな男であります。J C歴も長く各方面に精通し仲間への協力を惜しみません。私自身運動を推進していく上で、助言と手助けを数多くもらってきました。彼はJ C運動に対して確固たる信念を持ち、豊富な知識に基づく発言から率先した行動まで一貫した姿勢を貫いています。東京J Cにおいては各役職を歴任し06年には専務理事、そして09年には副理事長の要職を見事に全うし、更には50周年時60周年時共に東京J Cの目指す方向性の策定に中心的な役割を果たし、東京J Cの発展に大きく寄与しました。

J C以外でもNPO「日本ふるさと源基計画」を設立し、東京という地域に縛られる事なく、地域から日本を明るくする活動も中核に立って行っています。そんな多方面に渡り影響を与えている青山君を東京ブロック協議会会長として推薦できることは私、ひいては東京J Cの誇りであります。